

## 第6次白老町総合計画審議会（第1回） 会議要旨

日時：令和元年5月24日（金）16：00～17：30

場所：白老町役場 第2会議室

出席者：戸田町長（委嘱状交付・あいさつのみ）

岡田会長、中野副会長、北平委員、野瀬委員、笠井委員、牧野委員、宇津宮委員  
宇佐見委員、桑田委員 計9名

欠席者：倉地委員 計1名

事務局：【企画課】 工藤課長、温井主幹、安藤主任、金子主事、吉井主事 計5名

### 1 委員紹介・委嘱状交付

- 町長より委嘱状の交付

### 2 町長挨拶

- 人口減少、高齢化社会、財政の課題はどこのまちでも抱えている問題である。
- 人口が増えているまちもあるが、それはそのまちで子どもが生まれて増えているわけではなく、市町間での人のとりあいによるものが主たる要因である。
- 日本全体の人口が増えない限り、どこのまちも人口増が見込めないことから、人口減少を見据えた計画づくりが必要であると考えている。
- 財政の面についても経営感覚が非常に重要になってくる。
- お金の使いどころが町のため、町民のためになっているかという観点で計画づくりをしていただきたい。
- また、白老町には来年ウポポイが開設されるが、100万人の観光客を社台から虎杖浜までどれだけ回遊させられるかが課題となっており、皆様には町民目線で忌憚のないご意見を賜りたい。

### 3 会長、副会長選出・審議会の体制と役割

- 【会長】岡田 路明 氏 【副会長】中野 嘉陽 氏
- 審議会の体制と役割について
- 事務局から説明（資料1） 質疑なし

### 4 白老町の現状について

- 事務局から説明（資料2） 質疑なし

### 5 第5次白老町総合計画の概要について

- 事務局から説明（資料3） 質疑なし

### 6 第6次白老町総合計画策定方針について

- 事務局から説明（資料4）
- 意見等
  - 【牧野委員】小中学生のまちづくり標語について、学校側、教育委員会から了承はもらっているのか
  - 【事務局】 事前に校長会の場で依頼し、了承をいただいている。
  - 【桑田委員】各種団体へのヒアリングやアンケートを行うということだが、第5次総合計画を例にあげても計画自体が町民に対してPRされていない。行ったものをしっかりとフィードバックし、町民に見える形の総合計画にしなければならない。

7 意見交換

【宇津宮委員】人口減少下において、事業の選択が求められる。持続可能なまちづくりを目指した計画づくりをしなければならない。

【笠井委員】今の立場になるまで、総合計画というものを知らなかった。民間企業にも共通することだが、どれだけ町民と町がビジョンを共有できるかが重要となる。

【岡田会長】協働のまちづくりと言われて久しいが、まだ出発点にすら立っていないと感じている。

【北平委員】子どもの数は減っているが、子育て支援の需要は年々伸びている。8年前と環境は大きく変わっていることを踏まえて計画づくりに携わりたい。

【岡田会長】子育て環境、保護者の価値観、子どもの価値観も多様化している。ニーズに合ったものを考えていかなければならない。

【中野副会長】総合計画にかかわらず、何かを推進していくときに母体となるのがどこであるかを考えなければならない。なんでも役場ではなく、町民一人ひとりが自分達も母体であることを認識して取り組んでいかなければならない。

【岡田会長】行政だけに頼ったものでなく、町民が関わり、力を引き出すことができるものを答申できるように努めたい。これまで様々なサークルや団体をつくってきたが、参加してくれるメンバーは、ほとんど同じ人である。高齢化の中でどう若い世代を取り入れられるかも考えていかなければならない。

【宇佐見委員】町民の意見の吸い上げ方についてお聞きしたい。

【事務局】第5次総合計画策定時は町内会や各種団体へのヒアリング・アンケート等は行っていなかった。今回はより広く多様な意見を集めるために町内会や各種団体へのヒアリング・アンケートを実施したいと考えている。

【岡田会長】我々も自分たちが参加しているという意識を持たなければならない。

【野瀬委員】人口推計値からも20年後、白老町は別のまちになっている。その点を想定しなければ計画づくりを間違えるおそれがある。昨年度、白老町で子どもが57人しか生まれていない。将来世代に負の遺産を残さないような、公共施設等のあり方について検討が必要である。また、パブリックコメントの状況（回答件数が少ない）からも情報発信のあり方についても考えていかなければならない。

【岡田会長】隣町の苫小牧市ですら人口減少が始まった。白老町の人口が増えるということは考えにくい。実効性のある計画づくりが重要である。

【牧野委員】なんでもかんでも計画に盛り込むのではなく、やらないことも大事である。策定して満足では意味がない。

【岡田会長】事業の取捨選択、特に切ることは非常に大事であるが、その代わりに攻めるところは攻めなければならない。

【桑田委員】新たに立ち上がったこども食堂に対して町が支援をしていない。町民が何かをしようとするとき町が支援しない体制に疑問を感じている。地域おこし協力隊についても、ほとんどの方が定着につながっていない。せっかく白老町へ来てくれたのだから、少しでも定住につながるような支援策を検討いただきたい。

【岡田会長】行政が根拠のないところに支出することは難しいので、その根拠をどう作るか考えることが重要である。